

指定管理者制度導入施設の管理運営検証結果【検証シート】

施設の名		山形県産業創造支援センター	指定管理者	公益財団法人やまがた産業支援機構
所在地		山形市松栄1-3-8	県担当課	商業振興・経営支援課
指定期間		令和5年4月1日～令和8年3月31日	(電話番号)	(023-630-2290)
検証期間		令和7年4月1日～令和8年3月31日		
検証項目	指定管理者による自己検証	県(施設所管課)による評価・検証		
1 仕様書等に沿った管理・運營業務の履行状況				
① 管理・運營業務の履行状況	1. 仕様書に沿い、施設の管理責任者以下2名に加え、機構職員3名を兼務として配置し、常に安全性を確保するため、必要に応じた保守点検や修繕を実施した。 2. 入居企業の円滑な事業運営と快適なオフィス環境を提供するため、定期的な情報提供や意見交換の場を設けるとともに、創業支援アドバイザー、インキュベーションマネージャーによる入居企業の事業活動支援を行った。 3. 当機構が運営するスタートアップステーション・ジョージ山形と連携したイベントへの参加や個別相談の実施など、起業家同士の交流と機運醸成に努めた。 4. 入居を希望する企業は、事業に見合ったスペースを希望することを踏まえ、ML室を仕切り、S室へ転用し、希望に沿う入居室を増設した。	評価	<<評価の理由>> ・仕様書に基づき、適正な管理運営及び創業支援業務が行われている。 ・S室の増設や施設のPR活動により、令和7年度末時点で、入居企業の確保は見込まれるものの、その対応が遅れたことから、前年度比で収入が減少した。	
② 管理・運営上の課題、問題点(改善すべきこと)	1. 仕様書に従い設備の維持点検を委託又は直営で行った。この結果、エアコン等の空調設備、高圧ケーブルやコンデンサー等の電気設備、防火設備等の老朽化が進んでいることが確認された。これら以外の設備も修繕や部品交換の件数が増加しており、大規模修繕が必要になっている。県との協議の場を通して、役割分担を明確にしながら、計画的に対応していく必要がある。 2. ML室を仕切り、S室が増加したことを受け、入居企業の掘り起こしとセンターのPRを図っていく必要がある。		<<課題等の原因分析>> ・施設開設から20年以上が経過し、各設備の老朽化が進んでいる。 ・令和5年度にインキュベーション施設としての役割の明確化を目的として、1企業の入居期間が長期とならないよう管理要綱を改正し、施設の新陳代謝が活発になったことで退去企業が増加した。	
課題、問題点への今後の対応	・施設、設備の修繕については、優先順位をつけて計画的に実施していく。 ・県広報媒体やSNS等を活用し、広く情報を発信するとともに、産業支援機関や関係機関・団体等に対する周知活動を行い、新たに支援が必要な企業や創業希望者を掘り起こし、施設の利用拡大を図る。			
2 利用者からの要望等への対応				
① 意見・要望等及びその対応状況	1. 入居企業からの聞き取り、掲示板の活用及びチラシ配布等を随時行うとともに、情報交換の場を設け意見要望を把握した。また、寄せられた問題点に関しては迅速に対応した。 2. 会議室利用者の利便性向上のため、アンケート調査を行いニーズの把握に努めるとともに、令和8年2月からオンラインによる予約システムを導入し、更なる利便性の向上に努めた。	評価	<<評価の理由>> 入居企業及び貸会議室等の設備利用者の意見や要望等を適切に把握するとともに、寄せられた問題点等に迅速に対応している。	
意見・要望等への今後の対応	・随時、入居企業の意見、要望を把握し、施設でのトラブルを防ぐとともに利便性の向上に努める。 ・貸会議室利用者に対し、利用後のアンケート調査を行うことで更なるニーズを把握し、施設の利用促進に努める。			
3 指定管理者制度活用の効果				
① サービスの向上	1. 機構創業支援アドバイザーとインキュベーション・マネージャーを配置し、入居企業及び創業相談者に対する経営面への助言・指導の充実が図られたほか、指定管理者の支援機能(専門家派遣、よろず支援拠点)の活用により高度な相談ニーズに対応した。 2. 創業支援アドバイザー等による経営相談やSNSでの情報発信等により、企業とのコミュニケーション維持に務めた。 3. 創業塾では、参加者の創業意欲の向上を図るとともに、集団研修及び個別指導によるセミナーを開催し、参加者毎のニーズに合わせた支援を行った。	評価	<<評価の理由>> ・入居企業及び創業希望者に対して、指定管理者の支援機能(専門家派遣など)を活用し、より専門的な相談にも対応した。 ・創業塾では、起業予定者や起業に関心のある人に対して、集団研修及び個別指導によるセミナーを開催し、熟度に応じた相談や専門アドバイスをを行うなど、参加者それぞれのニーズに合わせた支援を行った。	
② 経費の節減	1. 電気代の高騰に伴い、共用部分の消灯、空調の温度設定などに配慮し、入居企業への呼びかけを行い光熱費の節減に努めた。 2. 照明のLED化や空調ユニットの交換など優先度に応じた修繕を計画的に進めた。	評価	<<評価の理由>> 共有部分の必要に応じた消灯、空調の適切な温度設定等を心掛けるとともに、入居企業に対しても適切な利用を呼び掛け、節電等に努めている。	
③ その他(地域の活性化、雇用の確保等)	立地している「アルカディア・ソフトパーク」の自治活動への積極的な参加や各企業の総会などを通じて、センター利用のPRを行った。また、清掃活動の際は、入居企業にも参加を呼びかけ、団地内企業との融和を図っている。	評価	<<評価の理由>> 自治活動への積極的な参加などにより、地域に貢献している。	
総合的な評価	仕様書及び事業計画書に基づき、管理運営、創業支援業務が適正に実施されており、利用者の意見・要望に対しても適切に対応していると認められる。			

【評価指標】

- A : 仕様書等に定める水準を上回っている等、優れた対応がなされている。
 B : 概ね適正に実施されている。
 C : 部分的に改善等を要するところがあるが、既に対応済み又は対応見込みである。
 D : 仕様書等に定める水準に達しておらず、大いに改善を行う必要がある。

注) 検証項目については、施設の特性等に応じて適宜追加することができるものであること。